

ワクチンを打つ前に  
知っておきたいこと  
読んでほしいこと



# HPVワクチンの ほんとうのこと

この表紙画像は原告の女性がデザインしたものです。  
副反応の症状は多様ですがこの女性のように車イス生活になる場合もあります。

国は 2022 年 4 月から、HPV（子宮頸がん）ワクチンの積極的勧奨を

再開してしまいました。いまも **重篤な副反応** に苦しんでいる

全国の多くの被害者らを **置き去り** にした再開です。

みなさんには、地元市町村から「お知らせ」や「予診票」など送

られてきているかもしれません。

その前に、HPV ワクチンについて “**ほんとうのこと**” を

知っていただきたいとの思いで、このリーフレットを作りました。

新型コロナウイルス感染症に対する一連の政府の対応を見てわかる通り、

国が行う医療政策が科学的に **正しいとは限りません。**

ほんとうに国民のためになっているかもわからないのです。

皆さんは、子宮頸がんと HPV ワクチンについて適切な **情報を把握** して、

**接種についての決断** をしてほしいと切に願っています。

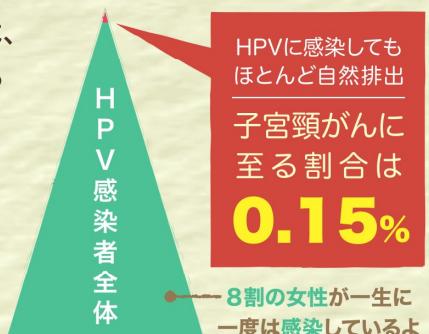
## みんな打ってるから大丈夫？

子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)を接種する  
そのまえに！正しく子宮頸がんについて知って、  
ワクチンには重い副反応被害報告もあること、  
どうしたら子宮頸がんが防げるかを、考えてみよう！

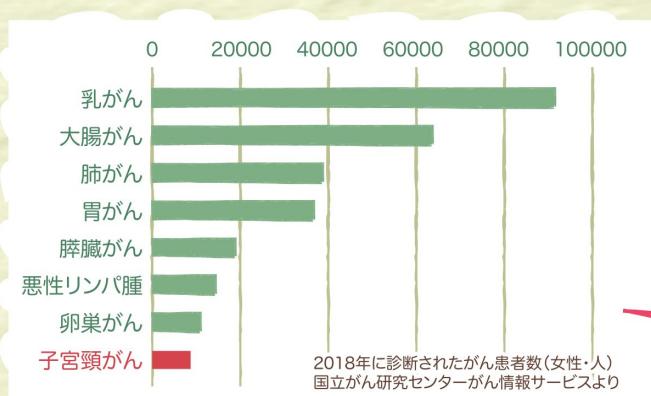


### HPVって、どんなウイルス？？

- ◆ 子宮頸がんの原因とされる HPV(ヒトパピローマウイルス) は、性交渉によって感染します。80%の女性が一生に一度は感染するといわれるありふれたウイルスです。
- ◆ 感染しても2年以内に9割が自然排出されます。まれに感染が持続し、前がん病変(CIN)になることもありますが、そこから正常な細胞に戻ることも多く、子宮頸がんにまで至る割合は感染者のわずか0.15%とされています。



### 子宮頸がんは、若い人が亡くなるガン？



#### 女性に多いその他のがんとの比較

日本人女性に多いがんは乳がん、大腸がん、肺がんなどです。罹患率・死亡率とともに、子宮頸がんは上位には入っておらず、特に多いというわけではありません。

いろんながんのうち、子宮頸がんにかかるたり、亡くなってしまう割合は、ともに7位以下なんだね。

### 亡くなる方の8割は50才以上

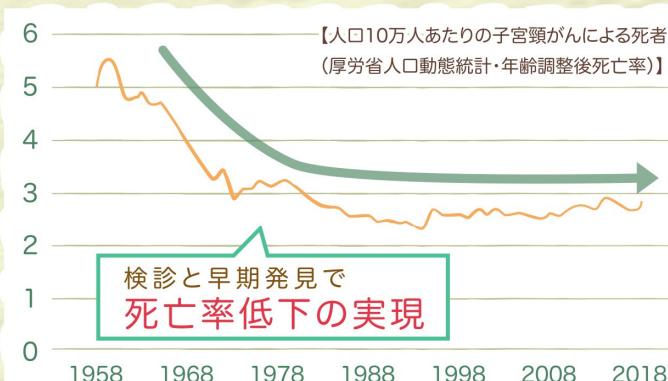
HPV感染から子宮頸がんに至るまでには数年から十数年かかります。日本では毎年約1万1000人の女性が子宮頸がんになり、約2800人が亡くなりますが、亡くなる方の8割は50歳以上であり、若い人が多数亡くなっているわけではありません。



# HPVワクチンってどんなもの？

## 子宮頸がんをふせぐためには、しっかり検診！

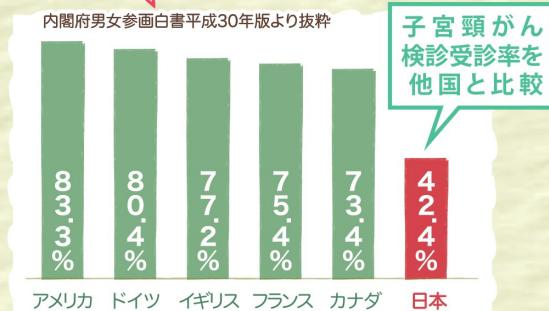
- ◆ 子宮頸がん検診を定期的に受けることで、前がん病変の段階で発見し、“がんになる前に”治療することが可能です。また仮にがんになっても初期であれば予後のよいがんです。(5年後に生存している率95.7%<sup>注1)</sup>2年に1度、きちんと検診を受けることがもっとも重要です。日本では子宮頸がん検診と衛生状況の改善によって、1970年代以降(ワクチンなしで)子宮頸がんによる死者を減らしてきました。



※注 1. 地域がん登録によるがん生存率データ (1993年～2011年診断例)

### まだまだ低い日本の子宮頸がん検診率

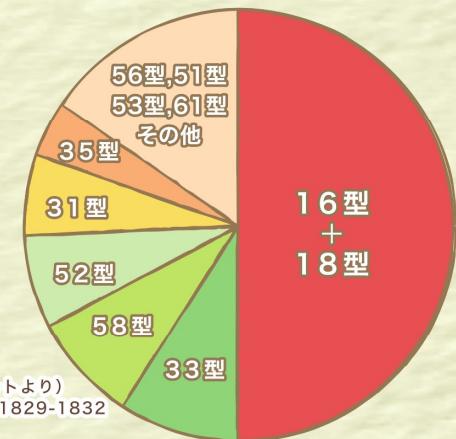
日本の子宮頸がん検診受診率は約42%(2018年)。80%前後が多い欧米先進国に比べ半分程度です。



### “がんになる”前の発見と治療が重要

- ◆ 200種類ほどあるHPVの中で、子宮頸がんにつながる「発がん型HPV」は約15種類。サーバリックス ガーダシルに含まれるのはそのうち2種類だけ、シルガード9でも7種類だけです。ワクチンを受けた人も定期的に検診を受け続けなければならないのはそのためです。ワクチンに入っていない別の発がん型が増えてくる現象=タイプリプレイスメントも懸念されます。

全てのHPV感染を防げるわけではない  
HPVにはいろんな型があるんだね。HPVワクチンを接種しても、すべてのHPV感染を防げるわけではないから注意しよう！



### HPVワクチンを打っても検診は受けないと！

## check point



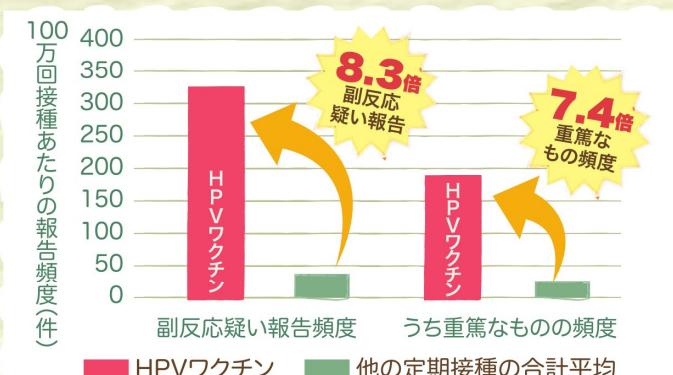
- ✓ 子宮頸がんは、ワクチンを打つだけでは防げない。
- ✓ 子宮頸がんは、検診を定期的に受けることで予防ができる、もしがんになっても、治療で治せる可能性が高い。
- ✓ 日本の子宮頸がん検診受診率は欧米先進国に比べて半分くらいだね。受診率をもっと上げて行かないと！

311人の子宮頸がん患者のHPV型  
(国立感染研 HPVワクチンファクトシートより)  
J Infect Dis, 2004. 189(10):16 p1829-1832

# HPVワクチンと副反応被害

## 他のワクチンと比べても高い副反応疑いの報告

◆ 厚労省の副反応検討部会 2023年4月28日資料によると HPVワクチンの副反応疑い報告は計3633件（約1100人に1人発生）うち重篤=入院相当以上が2109件（約1900人に1人発生）にのぼっています。



2023年4月28日第93回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より

これまでに約400万人が接種して…

副反応疑い報告 3633人  
(約1100人に1人)

うち重篤 2109人  
(約1900人に1人)

入院相当以上の深刻で重い症状

◆ HPVワクチン副反応疑い報告の頻度は、他の定期接種（12種類）の平均値の8.3倍、うち重篤なものの頻度も7.4倍です。9価ワクチンのシルガード9は、4価ワクチンよりもさらに高い頻度で重篤副反応疑い報告が出ています。（同厚労省資料によると2.0倍）

## 複合的な副反応被害と、確立しない治療法

◆ 副反応の症状は多様で、ひどい頭痛、全身の疼痛、脱力、不随意運動、歩行障害、睡眠障害、月経障害、記憶障害、学習障害など、多様な症状が一人の患者に重層的にあらわれるものです。この重篤な副反応の治療法は確立していません。

症状が複雑で理解されにくいうえ

治療法がみつかっていない



◆ 国が全国に設けた協力医療機関には、「このワクチンに副反応なんてない」と、被害者を詐病扱いするような医師もあり、十分に機能していません。被害者を真摯に診てくれる数少ない病院を頼って1000キロ以上移動せざるを得ない被害者もたくさんいます。

◆ 「協力」医療機関でも治療してもらえない。だれを頼ればいいんだろう??

## 世界的な副反応被害-日本でも被害者たちが提訴-

◆ 国と製薬会社に、真の被害救済と治療法の確立・再発防止などを求める訴訟は、全国4地裁で原告約120人(2023年5月現在)が2016年からたたかい続けています。

2016年より全国で訴訟がはじまり、今多くの被害女性たちが治療法も見つからない中、たたかい続けています



◆ 同じような副反応被害は世界中で起きています。

英国、アイルランド、スペイン、コロンビアなどに被害者の会があり、治療法の確立などを求める運動を続けています。そこでも、医療者から「心の問題」などと決めつけられ傷ついた人がいます。接種率は英国やオーストラリアのように高い国もありますが、ドイツ47%、フランス37%、イタリア32%(2021年)など必ずしも高い国ばかりではありません。(厚労省リーフレット詳細版による)

積極的勧奨が再開により、接種者が増え、同じ苦しみを味わう被害者が増えてしまうことが懸念されます。

**接種をする前に、メリットデメリットを慎重に考えてください**



子宮頸がんワクチンを接種した結果中学高校で発病し、将来の夢を諦めざるを得なくなったりした子がたくさんいます。

そのリスクをどう考えますか？

- HPVワクチンは他の定期接種に比べ、重篤な副反応疑いの報告が多い。**
- 重篤な副反応被害者は、学校に行けず、仕事もできず、車椅子になったり寝たきりになったり、日常生活が普通に送れなくなる人もいる。**
- 治療法も確立していない。**
- HPVワクチンが本当にがんを減らし、がんによる死者を予防できるかまだわからない。**

# 接種再開に抗議する被害者の声

2021年11月12日 積極的勧奨の再開を容認した厚労省副反応検討部会に抗議した声からの抜粋



HPVワクチン薬害訴訟原告団副代表 望月瑠菜さん（山梨県在住）



ご本人の映像はこちらからご視聴いただけます▶

<https://www.youtube.com/watch?v=Aj3D5niXfVg>

今日山梨から電車で東京に向かっている途中に、たまたま保存されていた高校卒業時に書いた両親への手紙の下書きが出てきました。4年前の私が書いた手紙です。

高校1年生の夏に歩けなくなってしまい、高校3年間障害を抱えながら過ごし、普通とはかけはなれた高校生活を送った私ですが、その手紙には、「治療法がきっと見つかると信じてる」と、とても前向きに書いてありました。

当時の私は治療法がすぐでてくると心から信じていたのです。

ですが、実際のところ4年前の症状と変わらない症状で今も生活しています。たった4年じゃ何も変わらないよと思う方もいるかもしれません、今すぐにでも痛みのない生活、障害のない生活を望んでいる私にとっては、4年はとても長い月日です。

当時の私は治療法を早く見つけてほしいという一心で、勉強会を開き被害を知ってもらったり、メディアを通して全国にこの被害を広めたり、高校生なりにがんばっていました。直接議員さんにお話したり、時には厚生労働大臣と直接お話したりしました。厚生労働大臣とお話する機会をはじめていただき、被害者に寄り添って行きたいという言葉を厚生労働大臣の口から直接聞いたときには、「やっと助けてもらえる」と心からうれしく思いました。ですが、それから寄り添ってもらっているなと感じたことは一度もありません。助かったなと思ったことも一度もありません。

そしてまた本日、HPVワクチンの積極的勧奨再開が決定したということを聞いて、あらためて私たち被害者のことを心から見ていないなと実感しました。私はこの被害について考えるのは、あまり好きではありません。今までのことを考えると、悲しくて涙が止まらないからです。

これ以上、思い出すのを悲しむ過去の時間を長くさせないでください。



HPVワクチン薬害九州訴訟原告 梅本美有さん（福岡県在住）



ご本人の映像はこちらからご視聴いただけます▶

<https://www.youtube.com/watch?v=WSBhAiSMeLQ&t=7s>

私は中学生から高校1年にかけてHPVワクチンを3回接種しました。

3回目接種後から、激しい体じゅうの痛みや、倒れ込みそうな重たい倦怠感、脱力など、何重もの症状に苦しみ、9年経った今でも、日常生活を普通に送れていません。1年内、半分以上はベッドの上です。ワクチンのせいで、私の人生はむちゃくちゃに壊されました。あつたはずの沢山の選択肢は奪われました。

今日の検討部会を聞きましたが、余りのひどい内容に、怒りと悔しさで涙が出ました。聞きたくなくて、途中で耳をふさぎました。出席者は、だれひとりとして、私たちの存在を重く受け止めておらず、再開ありきの話だけでした。今いるたくさんの被害者に対し、全く支援をしていないのに、治療法がないのに、積極的勧奨を再開すれば、被害者が増えることは、火を見るより明らかです。

積極的勧奨という決断は、多くの若い子達の人生を壊すということが分かっているのかと、問いたいです。もうこれ以上、自分たちにも、今の若い子達にも、苦しい思いを、させないで下さい。地獄のような苦しみを味わうのは、もうこりごりです。私たちの、今なお続いている被害に、目をそらさず、向き合って下さい。

※HPV ワクチン副反応被害者は、決して“反ワクチン”ではありません。

むしろ皆、国や製薬会社の言葉を信じて、

ワクチンを決められたとおりに接種してきた人たちなのです。

「私たちが反ワクチンであれば、  
こんなワクチンを娘に打たせなかったのに」

それが被害者の母の言葉です。

ワクチンには、長い使用実績をもとに有効性・安全性に  
定評のあるものもあれば、そうしたデータが不足しているものもあるのです。

- ▼ マスメディアは、ほとんど副反応被害を報じなくなり
- ▼ 副反応被害のことを知らない親御さんも増えています。
- ▼ そこでやむを得ず被害者の女性たちがSNSで情報発信を始めています



毎週金曜更新中!!

はーとくん@HPVV  
[https://twitter.com/kha\\_hpvv](https://twitter.com/kha_hpvv)

HPVワクチン副反応被害にあった当事者たちが、イラストや動画でわかり  
やすく最新情報や被害の実態を発信中です。ぜひのぞいてみてください。

【発行者】HPVワクチン東京訴訟支援ネットワーク  
<https://hpv-yakugai-shien.net/>

【発行日】2023年6月1日 資料用 第3版発行



この資料はこちらから  
ダウンロードできます